

VOL.14
平成27年9月

かごしま

みどりの基金だより



〔春うらら〕 撮影:春日富士子さん

特集

緑の少年団の活動事例



公益財団法人 かごしまみどりの基金



グリーン太郎

はじめに

森林は、様々な有益な働きを有しており、私たちに多くの恩恵をもたらしています。

国民が森林に対して何を期待しているかについて、内閣府が定期的に行っている調査^(※)があります。森林の働きとしていくつかの項目を示し、期待する働きを選択してもらうもので、平成23年の調査結果では、九つの項目のうち1位が「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」、2位は「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」、3位は「水資源を蓄える働き」となっています。「水資源のかん養」の3位は、比較的きれいな水がいつでも飲めるお国柄によるものでしょうか。

上位には入っていませんが「心身の癒しや安らぎの場を提供する働き」(5位)、「自然に親しみ、森林と人とのかかわりを学ぶなど教育の場としての働き」(8位)などはもう少し注目されてもよいのではないかと思います。

長寿化し、一方でストレスの多い現代社会にあって、心身ともに健康でありたいというのは万人の願いでしょう。森林の癒し効果は、徐々にではありますが科学的に実証されつつあります。また、特に子どもたちの森林での活動は、森林について学ぶだけでなく、様々な体験を通じて豊かな情操を育む効果があるとされています。

前段の3つは、誰かが森づくりをしてくれさえすれば皆が得られる恵み、後段の二つは、自分から森林に接して始めて得られる恵みです。

できるだけ多くの人に、森林に足を運んでもらい、活動し、楽しんでもらうことが大事なことであろうと考えます。

当かごしまみどりの基金では、こうしたことなどを踏まえながら、諸般の事業を積極的に進めていくこととしておりますので、皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

ここに、当基金の平成26年度の取組の概要を紹介させていただきます。

平成27年9月

公益財団法人かごしまみどりの基金

(※) 内閣府の「森林・林業」(昭55)、「みどりと木」(昭61)、「森林とみどり」(平5)、「森林と生活」(平19~)に関する世論調査

目次

I 緑化推進活動	
1 緑化推進の意義	1
2 緑化推進活動の歴史	1
3 本県における緑化推進体制	1
II 緑の募金	
1 緑の募金活動	2~4
2 緑の募金の使い途	5
III 緑の募金等を活用した取組の概要	
1 普及・啓発（緑化推進イベント等）	
① みどりの感謝祭	6
② 九州森林の日	6
③ 地区植樹祭等	7
④ かごしま木材まつり	7
2 緑の少年団の育成と活動支援	
① 緑の少年団の目的と組織	7
② 活動の状況	8
特集 緑の少年団の活動事例	10~13
3 森林ボランティアの育成と活動促進	
① 森林ボランティアの育成	14
・ かごしま森林の学校	14
・ 森林ボランティア技術研修	14
② 森林ボランティアの日の活動	15
③ 森林ボランティア連絡会	15~16
4 緑の募金事業	17~18
5 緑の募金学校の緑整備事業	18~19
6 名木・古木等緑の文化財保全事業	19~20
7 企業等との連携による森づくり	21~22
かごしまみどりの基金の組織体制	
(1) 理事会・評議員会・運営協議会	23
(2) 事務局	23

I 緑化推進活動

1 緑化推進の意義

森林は、木材等を供給するだけでなく、水資源を蓄えたり、洪水や山地災害等を抑えたり、あるいは二酸化炭素の吸収・固定を通じて地球の温暖化防止に貢献するほか、私たちの生活に潤いを与えるなど、人間が生きていく上で欠くことのできない多くの恵みをもたらしています。

このような森林やみどりを守り育てていくことは、私たちの安全で豊かな生活環境を形成する上で重要なことです。

2 緑化推進活動の歴史

我が国では、古くから生活、産業、文化等のあらゆる面において木材を多用してきました。人口の増加や産業の発展に伴い過度の森林伐採が行われ、明治時代までには我が国の森林は広い範囲でかなり荒廃していたようです。加えて先の大戦後の復興などで大量の木材が必要とされ、森林はさらに伐採されました。

そうした状況中、国土復興への願いを込めて「荒れた国土に緑の晴れ着を」をスローガンに、昭和25年、天皇陛下をお迎えして、初めての全国植樹祭が開催されました。

これを契機として、「緑の羽根募金」活動を中核とした国土緑化活動が始められています。

その後、平成7年に「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」（通称「緑の募金法」）が制定されたことにより、「緑の羽根募金」は「緑の募金」として法的な根拠を得ました。

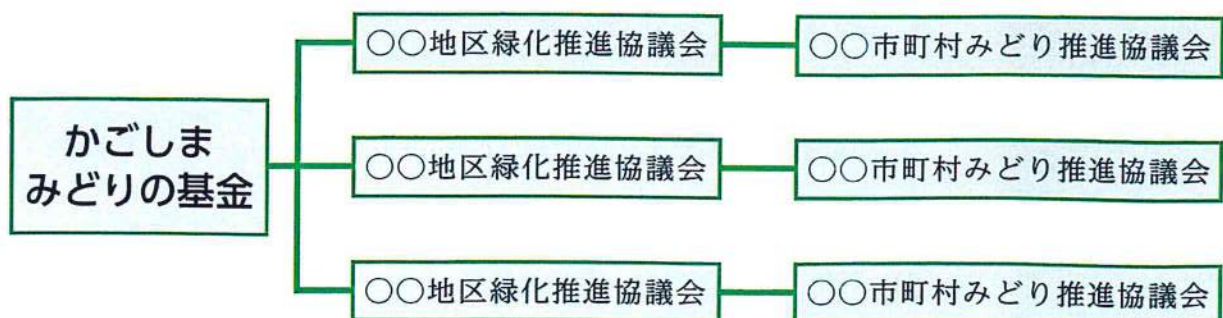
今日では多くの国民の賛同のもと、この緑の募金活動を核として幅広い緑化推進活動が進められています。

3 本県における緑化推進体制

鹿児島県においては、昭和26年に「鹿児島県緑化推進委員会」が設立され、これを中心に県土の緑化推進運動が展開されることとなりました。

平成5年9月13日には、県、市町村、企業・団体等の寄付により「財団法人かごしまみどりの基金」が設立され、平成23年7月1日に公益財団法人となり、緑化推進活動を推進しています。

また、県の各地域振興局・支庁を単位として「地区緑化推進協議会」が、県内全ての市町村に「市町村みどり推進協議会」が設置されており、かごしまみどりの基金と連携して緑の募金活動に取り組むとともに、独自の緑化推進活動を行っています。



Ⅱ 緑の募金

1 緑の募金活動

現在の緑の募金は、平成7年に制定された「緑の募金法」に基づいて実施されており、本県では公益財団法人かごしまみどりの基金のみがその実施団体として認定されています。

募金活動は、かごしまみどりの基金、地区緑化推進協議会、市町村みどり推進協議会が連携して進めており、町内会活動等を通じた家庭募金を中心として、企業募金、職場募金、学校募金、街頭募金など様々な方法で協力をいただいています。

【募金期間】

春期 2月1日～ 4月30日

秋期 9月1日～10月31日

【緑の募金スタート式】

春季募金期間の開始に当たり、緑の募金に係わる関係者が出席して、「緑の募金スタート式」を開催しています。

当基金理事長（知事）から県民の皆様への募金に対する協力のお願い、募金活動に携わる人たちへの激励の言葉が述べられ、緑の少年団代表から募金活動に係る決意の表明がなされました。

式終了後、ボランティア団体等は街頭に繰り出して、緑の募金のキャンペーンを行いました。



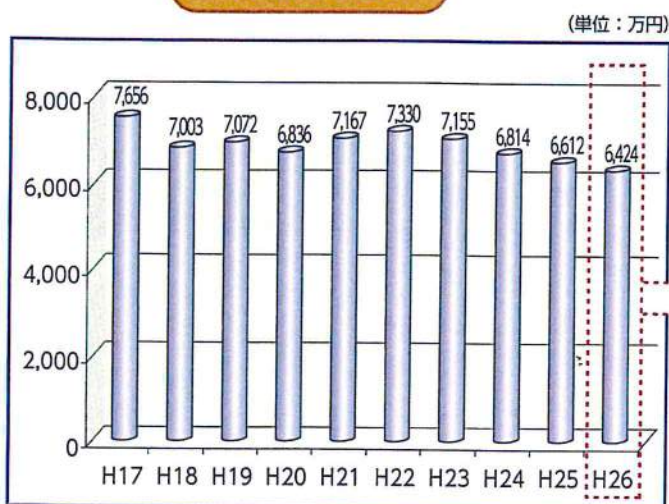
緑の募金スタート式での理事長（知事）のスタート宣言。
この後、参加者は街頭キャンペーンに出発します。

【募金の実績】

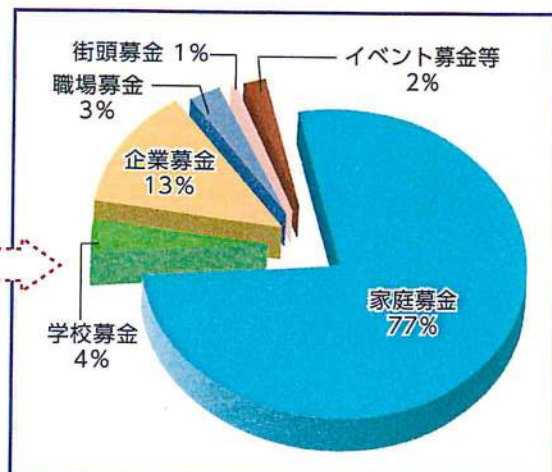
鹿児島県の平成26年度緑の募金実績 6,424万円（目標額：1億円）

平成26年度の募金額は、約6,424万円でした。また、募金の態様別の内訳は右のグラフのとおりで、町内会活動などを通じた家庭募金・個人募金が中心となっています。

募金額の推移



平成26年度の募金額の内訳



【募金活動の態様】

(1) 市町村みどり推進協議会を通じた募金

募金の大部分を占めるのは、市町村みどり推進協議会を通じた家庭募金、学校募金等です。

家庭募金については、自治会等の全面的な協力をいただいています。

(2) 企業・団体募金

最近は社会貢献活動（CSR）の一環として、「緑の募金」に協力してくださる企業や団体も増えてきています。また、企業・団体の職員の方々が職場募金として取り組んでくださる例もあります。

【企業・団体募金の事例】

○ アサヒビール株式会社鹿児島支社

アサヒビール株式会社では、「『うまい！を明日へ』プロジェクト」として、期間中に各都道府県で消費されたスーパードライの対象商品1本につき1円を、その都道府県の自然や環境の保護・保全等の活動に寄付する活動を行っています。

鹿児島支社では、森林整備や子どもたちの森林学習活動などに寄付することとしており、平成21年度から毎年緑の募金に多額の寄付をいただいています。



○ 鹿児島トヨペット株式会社

トヨペット株式会社では、緑豊かな街づくりをめざし、地域に根ざした社会貢献活動として、ふれあいグリーンキャンペーンを全国展開しています。

平成27年4月8日、県庁県民ホールでこのキャンペーンが開催され、大気浄化能力の高い環境改善植物「キルシエレッド」等が県へ贈呈されました。

この席で鹿児島トヨペット株式会社から、緑の募金を贈呈していただきました。



○ 京セラ株式会社

京セラ株式会社では、社会貢献活動の一環として、例年、県内3工場（鹿児島国分工場、同川内工場、同隼人工場）から緑の募金をいただいています。



○ 鹿児島信用金庫

鹿児島信用金庫では、「かしん『緑の杜』計画」に基づいて環境保全活動を進めることとしており、その一環として、森林整備を目的とした緑の募金を寄付していただきました。



(3) 店頭募金

コンビニエンスストアやファミリーレストランをはじめとする多くの商業施設で、店頭で募金箱を置いていただき、来店者の協力を頂いています。



募金箱

(株)南九州ファミリーマートや(株)フェニックス（吹上庵などを経営）では、グループの県内各店舗に募金箱を設置していただいています。

(4) 街頭募金、イベント募金

みどりの基金では、森林ボランティアや緑の少年団の協力を得ながら、街頭募金活動を行うほか、様々なイベントでも緑の募金の周知を図っています。

また、市町村みどり推進協議会でも同様の取組をしています。



(5) 緑の募金対応の飲料水自動販売機

ペットボトルや缶など飲料水の販売会社とかごしまみどりの基金との契約に基づいて、自動販売機での売上金の2%を緑の募金として寄付していただく取組を行っています。

現在、6つの販売会社と契約し、県の施設や企業など県下で20数カ所に設置しています。



(6) カレンダーバザー展

全国の多くの企業等から寄贈していただいたカレンダーを県民の皆様にご覧いただき、売り上げの全額を緑の募金とするものです。

平成26年度は、年末に鹿児島市の「ダイエー鴨池店」、鹿屋市の「プラッセだいわ」及び霧島市の「イオン隼人国分店」で、多くの森林ボランティアの協力をいただきながら実施しました。



過去3年間に、年間10万円以上の寄付をくださった企業・団体は次のとおりです。

アサヒビール株式会社鹿児島支社、鹿児島トヨペット株式会社、京セラ株式会社鹿児島国分工場、京セラ株式会社川内工場、鹿児島信用金庫、NTT西日本株式会社鹿児島支店、株式会社建築工房匠、有限会社西林業、白玉醸造合名会社、鹿児島県森林土木協会日置支部、出水平野土地改良区、鮎川建設株式会社、有限会社中村酒造場、えむ・ふぁみりー会、生活協同組合コープかごしま、鹿信ハッピー会連合会、株式会社鹿児島銀行、有限会社大竹商店、九州電力株式会社鹿児島支社、ハラダ製茶株式会社、株式会社南九州ファミリーマート、株式会社フェニックス、西日本ビバレッジ株式会社、コカコーラ・ウエスト株式会社

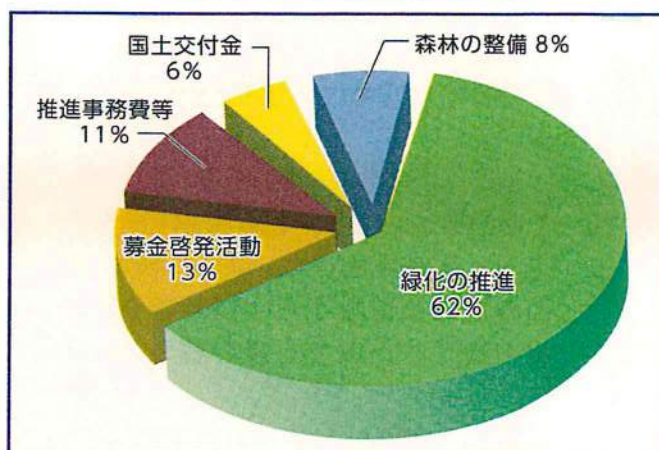
2 緑の募金の使い途

緑の募金については、緑の募金法で、森林の整備、環境緑化及びこれらについての国際協力、並びに緑の募金の啓発・普及に関する事務・事業に使用するように定められています。

本県の平成26年度の緑の募金の使い途は右のグラフのとおりで、緑化の推進に関するものが62%、森林の整備に関するものが8%などとなっています。

なお、各市町村みどり推進協議会によりとりまとめられた募金については、募金額の6割が各々の協議会に交付され、市町村独自の森林整備や緑化活動等に活用されています。(右上のグラフは、市町村分も含んでいます。)

緑の募金の使い途 (実績)



Ⅲ 緑の募金等を活用した取組の概要

公益財団法人かごしまみどりの基金が平成26年度に実施した事業の概要を紹介します。

1 普及・啓発

森林やみどりは、私たちに多くの恵みをもたらしてくれていますが、高度化した社会の中で、人々が森林とふれあう機会が少なくなってきました。

このようなことから、より多くの人々に森林に関心を持ってもらうため、広報誌の発行やイベントの開催など様々な活動を行っています。

(緑化推進イベント等)

① みどりの感謝祭

県民に森林に親しんでいただくため、4月29日(旧みどりの日)、県との共催で、新緑の美しい県民の森において「みどりの感謝祭」を開催しました。式典のほか森の散策、木工教室など多彩な催しが行われ、緑の少年団を始め家族連れなど約2,000人が、県民の森の一日を楽しみました。



式典のようす



ツリークライミングに熱中する子どもたち



参加者へ記念の花苗配布

② 九州森林の日

平成20年5月に、九州7県と九州森林管理局が毎年11月第2日曜日を「九州森林(もり)の日」と定めたことを受けて、本県では毎年この時期に森林づくり活動に取り組んでいます。

平成26年度は、11月に、森林ボランティア団体や趣旨に賛同する企業等の参加を得て、南九州市加世田の海岸林においてクロマツ(マツクイムシ抵抗性マツのスーパーグリーンさつま)の植栽と、苗木をウサギの食害から守るためネットをかぶせる作業を行いました。



植樹活動



森林の散策

③ 地区植樹祭等

多くの県民に植樹・育樹活動に参加していただき、森林整備、環境緑化への理解を深めていただくため、毎年、各地域の森林・林業振興協議会等の主催で地区植樹祭が開催されています。

かごしまみどりの基金では、地区植樹祭の開催に際し、理事長からのメッセージとともに助成金を贈り、地区植樹祭を支援しています。

平成26年度の地区植樹祭の開催状況

地区名	実施年月日	場 所
鹿 児 島	平成26年11月22日	鹿児島市観光農業公園グリーンファーム
北 薩	平成26年11月11日	さつま町観音滝公園隣接の町有林
始良・伊佐	平成26年10月25日	湧水町吉松池平公園
大 隅	平成26年11月22日	垂水市中ノ平さくら公園
熊 毛	平成26年11月11日	南種子町総合グラウンド

※ 南薩、奄美大島地区は、隔年開催のため平成26年度は開催されていない。



始良・伊佐地区植樹祭



地区植樹祭に参加した緑の少年団

④ かごしま木材まつり

かごしま木材まつりは、広く県民の方々に県産材に対する理解を深め利用拡大を図ることを目的として毎年実施されています。

かごしまみどりの基金では、県産材利用が森林所有者の森林経営意欲増進へ、さらには森林整備へと繋がることを期待して参加し、緑の募金の呼びかけをしています。

2 緑の少年団の育成と活動支援

① 緑の少年団の目的と組織

緑の少年団は、次代を担う子供たちが緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、人を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とした自主的な団体です。

緑の少年団は、学校や地域を単位として小・中学生を中心に結成されており、森林づくりや緑化に関する学習や体験活動など様々な取組を行っています。

本県では昭和48年から逐次結成されており、平成26年度には、佐多小緑の少年団（南大隅町）、南種子町緑の少年団（南種子町）、幸田小緑の少年団（湧水町）の3つの少年団が新たに結成されました。

これに伴い、緑の少年団は現在、59団、1,689人となっています。

また、各緑の少年団ごとに少年団を育成・指導する育成会が組織されており、育成会を含めて緑の少年団鹿児島県連盟が結成されています。

② 活動の状況

各緑の少年団は、「みどりの感謝祭」や地区植樹祭などのイベントへの参加，地域ごとの交流集会，各団独自の森林体験・学習や緑化活動のほか，街頭募金などの活動にも積極的に取り組んでいます。

また，毎年8月に開催される「緑の少年団活動発表大会」では日頃の活動内容を発表し合うとともに，団相互の交流を図っています。

昨年は，8月2日，霧島市溝辺公民館（みそめ館）で開催され，7つの少年団が日頃の活動について発表しました。



緑の少年団活動発表大会
左：発表の様子 右：表彰式



発表会後の交流会

緑の少年団一覽

(平成27年4月現在)

支部	番号	団名	小学生		中学生		合計	支部	番号	団名	小学生		中学生		合計	
			男	女	男	女					男	女				
鹿	1	桜洲	6	3			9	北	4	永野	14	8			22	
	2	福平	3	2	5	高1	11		5	紫尾	8	10			18	
	3	黒神中			1	2	3		6	里	14	9	8	7	38	
	4	清水中			26	21	47		7	蔵之元	22	9			31	
	5	吉野東中			9	5	14		計	7団	101	66	8	7	182	
	6	河頭中			24	15	39		始 良 ・ 伊 佐	1	高岡	24	18			42
	7	皇徳寺中			8	8	16			2	霧島山	6	4			10
	8	福平中			18	2	20	3		竹子	13	17			30	
	9	緑丘中			12	10	22	4		安良	19	23			42	
	10	武中			13	10	23	5		霧島小	4	5			9	
	11	東桜島中			13	10	23	6		長谷	5	3			8	
	12	鹿大付属中			19	21	40	7		川添	16	9	2	3	30	
	13	武岡中			5	6	11	8		蒲生くすのき	4	1	3	3	11	
	14	伊敷台中			11	9	20	9		高熊山	15	9			24	
	15	長田中			21	21	42	10		本城	26	21			47	
	16	西紫原中			14	15	29	11		幸田小	18	15			33	
	17	桜島中			28	28	56	計	11団	150	125	5	6	286		
島	18	坂元うちの	4	14			18	曾	1	恒吉小	5	10			15	
	19	一倉	4	5			9		2	潤ヶ野	6	3			9	
	20	三重岳	8	15			23		3	財部北ふるさと	10	5			15	
	21	鹿児島島玉龍			180	178	358		4	持留小	14	9			23	
	22	遠見番山			8	4	12	計	4団	35	27	0	0	62		
	23	川上	6	6			12	肝 属	1	猿ヶ城	13	13			26	
	24	伊集院町	6	7			13		2	横尾岳	24	24			48	
	25	冠岳	6	5			11		3	大原	8	7			15	
	計	25団	43	57	415	366	881		4	佐多小	9	9			18	
	南	1	宮ヶ浜	11	8			19	計	4団	54	53	0	0	107	
2		知覧小	9	13			22	熊 毛	1	南種子町	3	2	1	1	7	
3		青戸	8	11			19		計	1団	3	2	1	1	7	
4		霜出	6	10			16	大 島	1	高千穂	16	14			30	
計	4団	34	42	0	0	76	2		大山	13	15			28		
1	佐志	21	14			35	3		赤木名	16	14			30		
北	2	大馬越	10	6			16	計	3団	45	43	0	0	88		
	3	蘭牟田	12	10			22	合計	59団	465	415	429	380	1,689		
								地域単位	13団	108	110	16	9	243		
								学校単位	46団	357	305	413	371	1,446		



緑の少年団の活動事例

緑の少年団は、それぞれの学校や地域で、森林や緑に関する学習・体験活動のほか地域活動など様々な活動を行っています。ここにその活動の様子を紹介します。

(平成27年8月1日に開催された「鹿児島県緑の少年団発表大会」の発表内容をもとに基金事務局で編集したものです。)

恒吉小緑の少年団 (曾於市)

全校生徒15人で「緑への興味アップ」, 「心と体の元気アップ」, 「仲良くする気持ちアップ」をモットーに活動しています。

恒吉小学校には、大事に育てられた学校林があります。その山の木がどのようにして使われるようになるのかを知るため、森林環境税の事業を活用して、学校林の木の伐採, 木材市場での販売, 製材所で柱や板に加工されるまでの過程を学習しました。最後に、その材料を使って、みんなでベンチを作って地域の人に利用してもらいました。また、樹木医さんに来てもらって、木の名前などを調べる学習をしました。そのほか、緑の感謝祭などに参加したり、緑の募金活動などを行いました。

今後も、学校林を大切にしながら、森林についての学習などをしていきたいと考えています。



◀ 伐採現場



▲ 製材所



◀ 木材加工



▲ シイタケ駒打ち



◀ 樹木名前調べ

伊集院町緑の少年団 (日置市)

飯牟礼小学校6年生13人で活動しています。

飯牟礼地区には、諸正岳、矢筈岳という山があり、毎年交互に山登りをしています。

学校には「飯牟礼っ子の森」と名付けられた学校林があり、これを育てる活動をしています。去年は、将来、川や海を豊かにし、私たちに恵みをもたらすことを期待してクヌギの苗150本を植えました。

また、校内にはたくさんの樹木があります。名前調べをした結果56種類ありました。それをマップにして記録しました。

木工体験や学校樹の梅の木を利用した梅干しづくりでは、木がいろいろ形を変えて私たちの生活の役に立っていることを学びました。

そのほか、緑の募金活動も行いました。

これからも、学校林を生かし緑を守る活動を続けていきたいと考えています。



◀ 学校林づくり



◀ 植樹



◀ 樹木名前調べ



▲ 木工体験



◀ 緑の募金

霜出緑の少年団（南九州市）

平成26年に結成された緑の少年団です。

「自然の中に笑顔がいっぱい」をテーマに、7月：海岸清掃、カヌー体験 8月：ウミガメ放流、木工体験 10月：Tシャツ染色、芋掘り、ピザ作り 11月：「九州森林の日」の活動、緑の募金、玉入れ大会 1月：シイタケ駒打ち、餅つき 2月：森林アドベンチャー（アスレチック体験） 3月：キャンプ 4月：みどりの感謝祭 5月：潮干狩り 6月：どろんこ大運動会など、たくさんの体験をしました。

海岸清掃では、自然をきれいにしなければならないことを学びました。九州森林の日植樹祭では、元気に育つことを願いながら植樹をしました。

自分の目を見て、手で触れて、体で感じる活動を通していろいろなことを学びました。

これからも友達、家族、地域の人と一緒にいろんな経験をしていきたいと考えています。

▼ 海岸清掃



▼ ウミガメ放流



◀ 植樹



▲ 募金活動



▲ シイタケ駒打ち

紫尾緑の少年団（さつま町）

紫尾小学校では、伝統芸能である棒踊りを伝承する活動やお年寄りとのふれあい活動、カブトムシを飼育して産卵から羽化までを観察していく「カブトムシの里づくり」活動などを行っています。

緑の少年団活動では、花いっぱい運動として、多くの種類の花を育てて校内に植えたり、地域の人たちにプレゼントしました。また、校内美化活動にも取り組んでいます。

また、夏にはトンカチ号に来てもらって木工体験をし、冬にはシイタケの駒打ちを行いました。

地区の緑の少年団交流会では、丸太切り競争などを行ってほかの少年団と楽しく交流しました。

これからも、このような活動を続けていきたいと考えています。



▲ 校内緑化



▲ 花いろいろ



シイタケ駒打ち

▲ 木工体験 ▼



霧島小緑の少年団（霧島市）

霧島小緑の少年団では、校内花いっぱい活動に取り組んでいます。昨年は、1,300本の苗を作って植えました。グリーンカーテンはすくすく伸びてひんやりした空気を送ってくれました。

地区交流会では、栗野岳のタブの原生林を散策しながら樹木の名前を調べたり、地域の人から森林と人とのかかわりなどの話を聞いたり、竹中池では森林と水との関係を学習したりしました。また、溪流に造られたダムが土石流などの被害を防いでくれることも知ることができました。

クリーンウォーキングでは、みんなで道路沿いのゴミ拾いをしました。観光地でもある地域の自然を大切にしなければいけないと思いました。

これからも、地域の自然を大切にしながら、いろいろな活動を続けていきたいと思っています。



▲ 緑化活動



▲ グリーンカーテン



▲ 樹木名調べ



▲ 地域の美化活動

猿ヶ城緑の少年団（垂水市）

昭和51年結成された緑の少年団で、水之上小学校5、6年生で活動しています。

緑の少年団では、地域の人たちと一緒に、自然環境を守る活動に力を入れています。地域の道路を春は「菜の花ロード」、秋には「コスモスロード」にするため、種まきから芽が出た後の手入れを毎年行っています。また、水之上公民館にある少年団の花壇の手入れも行っています。そのほか、昨年は観光地である「千本桜」の枯れ枝拾いも行いました。

また、緑の少年団活動発表大会や肝属地区実践交流会、大隅植樹祭にも積極的に参加したり、緑の募金活動をしたりして、様々な体験活動やほかの少年団との交流を行いました。

これからも、このような活動を続けていきたいと考えています。



▲ 緑化活動 ▲



▲ コスモスロード



▲ 体験活動



▲ 募金活動

緑の少年団がロシア・ハバロフスク州の少年団と交流

公益社団法人国土緑化推進機構の「緑の少年団国際交流事業」により、日本とロシア・ハバロフスク州の緑の少年団活動とは、一年ごとに相互訪問して、交流を行っています。

今年は、7月27日から8月2日までの日程で、ハバロフスクで交流活動が実施され、鹿児島県からは、南九州市の青戸緑の少年団員3名と引率の先生1名が参加しました。子どもたちはロシアの大自然の中での交流活動を楽しんだようです。

ここに、その写真と参加者代表の感想文を紹介します。



「この活動でわかったこと」

青戸緑の少年団 6年 新原 大智

ロシアに行く前は、ロシアに対してあまり良い印象をもっておらず、少し心配なところもありました。それに、言葉が通じないので、ロシア人と仲良くなれないだろうと思っていました。しかし実際は、ハバロフスク市内には、たくさんのきれいな広場や建物があり、市街地の周りには美しい森林地帯が広がり、日本の飲み物や食べ物、車もあり親しみがもてました。ロシア人はとても友好的で、とても親しみやすかったです。言葉の壁もあったけどゼスチャーなどで少しは伝えることができました。

しかし、ロシアの食事は、あまり口に合いませんでした。だから、日本の食べ物が恋しくなりました。また、水道の水が、飲めなかったので、水の大切さがよくわかりました。

何回かロシア人とサッカーをしました。ロシア人は、とても運動神経がよく、強かったです。そして、サッカーなどを通して、ロシア人と仲良くできたことが、とても良かったです。ロシアでのこの1週間は、一生忘れない思い出になりました。

この1週間でロシアのイメージが変わりました。ロシア人もとても優しく、とても良かったです。

この交流ではロシア人だけでなく、日本の他県からの参加者もたくさんいました。だから、ロシアだけでなく、日本の他県のことや青戸以外の緑の少年団の活動についても知ることができました。

ロシアの雄大な自然に触れ、ロシアや他県の緑の少年団の活動を知ることによってこれからもっと緑の少年団活動をがんばりたいと思いました。（※ 原文のまま）

3 森林ボランティアの育成と活動促進

森林や緑の保全・育成等に高い意識を持つ県民が、自発的に森林ボランティア団体を結成し、植樹や育樹活動に取り組んでいます。

各森林ボランティア団体は、地域の特性や構成員の持っている知識・技能を生かしながら、植栽、間伐等の森林整備をはじめ、県民・子どもたちを対象とした森林学習、木工・クラブ体験、自然観察会の開催など多彩な活動を展開しています。

かごしまみどりの基金では、森林ボランティアの育成を図るとともに、団体の活動を積極的に支援しています。

① 森林ボランティアの育成

○ かごしま森林(もり)の学校

かごしまみどりの基金では、森林ボランティアリーダーを養成するため、平成20年度から「かごしま森林の学校」を開催しています。

「森林の学校」では、森林・林業や木材に関する知識、森林体験活動の進め方などについて座学や実習を交えて学習します。受講生は、修了後はボランティアグループを結成するなどして、実践活動に取り組んでいます。

平成26年度は年間10日間の講義を実施し、10人が履修しました。

「かごしま森林の学校」の修了者数

年 度	平成20年 (第1回)	平成21年 (第2回)	平成22年 (第3回)	平成23年 (第4回)	平成24年 (第5回)	平成25年 (第6回)	平成26年 (第7回)	累 計
人 数	29	25	32	22	32	7	10	157



座学



植生調査実習



閉講式

○ 森林ボランティア技術研修

森林ボランティア活動においては、刈払機、チェーンソーは欠かせないものですが、危険性の高い道具です。そのため、みどりの基金では、刈払機、チェーンソーの安全・的確な操作技術を習得するための「森林ボランティア技術研修(初級, 中級)」を開催しています。

平成26年度は初級研修を5回(受講者数100人)、中級研修を1回(受講者数14人)実施しました。



法令講習



刈払機の取扱



チェーンソーの取扱

② 森林ボランティアの日の活動

9月第3日曜日は「森林ボランティアの日」となっています。森林を育てることの大切さを認識し、一人一人がそれぞれの立場で森林づくりに参加する気持ちを醸成するとともに、森林ボランティア活動の社会的評価を高めることを目的に定められたものです。

本県では、例年この日に、県下各地で活動している森林ボランティアが集結し、森林整備等の活動を実施しています。

昨年度は、9月21日、始良市加治木町「さえずりの森」で実施しました。あいにくの雨模様でしたが、森林ボランティアや緑の少年団など約270名が下刈りや除伐、歩道整備などの活動に汗を流しました。



集合写真



人工林の整備



広葉樹林整備

③ 森林ボランティア連絡会

森林ボランティア団体の相互の連携を図りながら、森林や緑に関する啓発活動や森林整備活動などの効果的推進を図ることを目的に、「鹿児島県森林ボランティア連絡会」が結成されています。この連絡会には現在28団体が加盟しています。

森林ボランティア連絡会加盟団体

No	団体名	代表 (事務局)	No	団体名	代表 (事務局)
1	鹿児島県森林インストラクター 連絡協議会	野方俊郎 (鹿児島市)	15	NPO法人 縄文の森をつくろう会	幸野昌廣 (指宿市)
2	鹿児島グリーンヘルパーの会	下野和義 (鹿児島市)	16	NPO法人 エコ・リンク・アソシエーション	下津 公一郎 (南さつま市)
3	特定非営利活動法人さとやま	山口友孝 (鹿児島市)	17	グリーンアートさつま	岩重澄夫 (日置市)
4	みどりの二季会	四本 紘 (鹿児島市)	18	はっばクラブ	坂元光則 (薩摩川内市)
5	かごしまふるさとインストラク ターの会 山輝会(さんきかい)	清家優子 (鹿児島市)	19	田舎の環境を守る会	末吉弘典 (薩摩川内市)
6	森林の学校一歩会	上原節雄 (鹿児島市)	20	い～さ竹林の学校	西 光明 (伊佐市)
7	さつまグリーンヘルパーの会	野口謙作 (鹿児島市)	21	美しい「緑山会」	末永領一 (霧島市)
8	グローバル・フォレスター	福永敦子 (鹿児島市)	22	NPO法人四季の会	塩川英彬 (始良市)
9	フォレスト22	宮内英世 (鹿児島市)	23	鹿児島県グリーンマスターの会	大浦地 政廣 (始良市)
10	かごしまどんぐり三期会	有田 肇 (鹿児島市)	24	蒲生郷「おかべ会」	川添正剛 (始良市)
11	特定非営利活動法人 森と木の研究所	大坪弘幸 (鹿児島市)	25	もりびと 森林人	竹井靖人 (鹿児島市)
12	もりはやし倶楽部	木之下 勇一 (鹿児島市)	26	もりんら 森人リン5の会	山元喜平 (始良市)
13	特定非営利活動法人 みどりの風かんかん	神野 環 (鹿児島市)	27	NPO法人 森のヘルパー森林整備隊	前田 誠 (曾於市)
14	特定非営利活動法人 NPO-WBCかごしま	高山信義 (鹿児島市)	28	林生会	脇田 博 (曾於市)

4 緑の募金事業（公募方式の事業）

この事業は、森林整備や緑化推進に意欲のある森林ボランティアや自治会等の団体を対象として、その地域活動を助長するために助成するものです。

平成26年度は次の団体の活動に助成を行いました。

No	実施団体名	事業内容等	実施場所
1	桜島どんぐりころころ植樹祭実行委員会	鹿児島市内の緑の少年団が、自ら育てた苗木を持ち寄って植樹する「桜島どんぐりころころ植樹祭」を開催するとともに、これまでこの植樹祭で植樹した箇所の草刈りなどを実施	鹿児島市
2	フォレスト22	県民に対する森林についての普及啓発の場とするため、郡山地区の「環境の森林」において広葉樹林の整備を実施	鹿児島市
3	もりびと森林人	手入れの遅れた森林を間伐し広葉樹の苗を植栽するとともに、林内の歩道整備を実施	鹿児島市
4	特定非営利活動法人みどりの風かんかん	森林や環境についての理解を深めるため、子どもを対象とした森林学習と木工体験活動を実施	鹿児島市
5	さつまグリーンヘルパーの会	桜島の緑化を図るためのサクラの苗づくり、過去にサクラを植栽した箇所の下刈を実施	鹿児島市
6	鹿児島県森林インストラクター連絡協議会	子供たちを対象とした森林学習・クラフト体験のほか、幹線道路緑地帯やふれあいの森等の下刈、グリーンファームでの植樹を実施	鹿児島市 始良市ほか
7	みどりの二季会	霧島市轟木の滝周辺の荒廃した森林の整備、ジュニア樹木博士講座など児童・生徒の森林体験活動を実施	霧島市ほか
8	蒲生郷「おかべ会」	森林の重要性啓発の拠点である「友愛さとの山」の森林整備、地域の小学校児童を対象とした森林環境教育、シイタケ駒打ちなどの体験活動を実施	始良市
9	岩剣神社鎮守の森整備委員会	境内林を地域の憩いの場とするため、地域住民や児童・生徒により、森林の整備と植樹、荒廃した竹林の整備を実施	始良市
10	もりんちの森人リン5の会	森林体験活動のフィールドとするための森林の間伐、地域住民等を対象としたシイタケ駒打ち、木工体験活動を実施	始良市
11	森林の学校一歩会	会員による荒廃竹林の整備、市民・児童を対象としたシイタケ駒打ち、タケノコ掘り体験活動を実施	始良市
12	NPO法人四季の会	森林への理解を深めるため、県民の森、さえずりの森において森林の散策、山菜・タケノコ収穫体験、竹工作教室等を内容とするバスツアーを実施	始良市 霧島市
13	森林のまつり実行委員会	森林整備の重要性、木の良さ、緑化の推進等に関する普及啓発を図るため「森林のまつり」を開催	霧島市
14	出水地域木材利用推進協議会	森林や林業に関する情報提供を通じた森林を守り育てる意識の醸成、木の良さのPRを図るため「木材まつり」を開催	出水市
15	鹿児島県水域環境美化推進協議会	「水のえがおキャンペーン」の一環として、バスツアー参加者により、間伐の見学等森林体験、植樹活動を実施	曾於市ほか
16	大隅流域森林・林業活性化センター	「おおすみ木材まつり」を開催し、パネル展示や体験活動、展示即売等を通じて、森林の大切さの啓発や、地域産材のPRを実施	鹿屋市
17	下西校区	地区公民館の新設を記念して、環境緑化を図るための樹木の植栽、景観整備を実施	西之表市

桜島どんぐりころころ植樹祭実行委員会の取組

「桜島どんぐりころころ植樹祭実行委員会」は、緑化活動を通じて児童・生徒の豊かな情操を育むことを目的に結成されたものです。

「桜島どんぐりころころ植樹祭」は、鹿児島市内の中学校を主とする緑の少年団が、実行委員会の先生方の指導のもと、どんぐりの種子を集め、2～3年かけて育てた苗木を桜島に持ち寄って植樹を行うものです。

昨年度は、平成27年2月28日に約600人が参加して、マテバシイ、ウバメガシ、アラカシの苗木を植えました。

また、夏には、実行委員会の方々と少年団員とで、これまでに植樹した箇所の下刈りを行っています。



植樹祭の開会式



少年団による植樹



既植栽地の下刈り

5 緑の募金学校の緑整備事業

No	実施校名	事業内容等
1	南九州市立霜出小学校	学校林の除間伐(1.1ha)及び管理用道路を整備するとともに、児童による木工製作、シイタケ駒打ち体験活動を実施
2	日置市立住吉小学校	校内の緑化を図るため、樹木、花木を植栽
3	肝付町立宮富小学校	校内樹木園での樹木名調べ、樹名板設置、木製机・ベンチの製作
4	肝付町立内之浦小学校	木製ベンチの組み立て・設置、学校農園づくり、樹木の剪定

学校の緑整備事業実施事例

南九州市立霜出小学校PTA事業整備部

霜出小学校PTA事業整備部では、学校林に作業道100mを開設し(①)、1.1haの間伐、下刈り(②、③)などを行いました。また、間伐材を利用して丸太の平均台やイス・テーブルを作成・設置しました(④、⑤)。そのほか、子どもたちのシイタケ駒打ち体験、スギの枝を利用した運動会の緑門づくり(⑥)を行いました。

霜出小学校では、平成26年5月に緑の少年団が結成されており、整備された学校林が、子どもたちの森林環境学習や体験活動の拠点となることが期待されます。



6 名木・古木等緑の文化財保全事業

この事業は、県内各地に賦存する名木・古木等を保全することにより、県民の森林、緑化への理解を深めるため、平成21年度から実施しています。この事業による保全対象は、名木・古木はもとより、特に文化財などに指定されていなくても地域の人々に親しまれている樹木も含まれます。各市町村みどり推進協議会から申請があったものについて、樹木医の診断を受け、その結果に基づき保全措置を実施します。

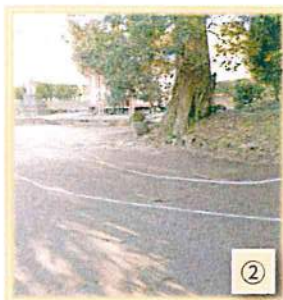
平成26年度は、12箇所の申請があり、それぞれ診断をした上で、次の8箇所の保全措置を実施しました。

保全措置の必要がないと判断された4箇所については、診断書及び処方箋を送付し、それぞれで対応してもらうこととしました。

保全措置を実施した箇所

No	所在地	樹種、本数等	保全措置の概要
1	鹿児島市郡山町 大浦公民館	イチイガシ (1本) 推定樹齢300年	土壌改良, 根株の腐朽部の切除・治療, 腐朽大枝の切除と切除部の養生, 侵入防止柵の設置
2	指宿市十町 柳田小学校	イチヨウ (1本) 推定樹齢100年	周辺の腐朽木の除去, シロアリ駆除, 土壌改良, 枯損・不要枝の除去
3	南九州市川辺町 神殿小学校	イロハモミジ (1本)	土壌改良, 枯損枝・不要枝の除去, 不定根の治療, シロアリ駆除
4	いちき串木野市上名 奥田邸	イヌマキ (1本) 推定樹齢200年 ゴヨウマツ (1本) 推定樹齢150年	土壌改良, 幹・枝の腐朽部の切除・治療
5	さつま町紫尾 紫尾小学校	モミ (1本)	土壌改良, 根株の腐植部の切除・治療, 枯損枝の除去
6	伊佐市大口 郡山八幡神社	イチイガシ (1本) 推定樹齢200年	土壌改良, 根株の腐植部の切除・治療, 腐朽大枝の切除と切除部の養生, 倒伏防止のためのワイヤー牽引
7	西之表市安城 鴻峰小学校跡	ヤクタネゴヨウ (1本) 推定樹齢100年	土壌改良, 土中排水溝の設置, 不要枝の除去
8	与論町朝戸 与論小学校	ガジュマル (2本) 推定樹齢100年	倒伏した樹木の立て直し, 土壌改良

鹿児島市郡山町大浦公民館 イチイガシ



この木の周囲は、長年踏みしめられ、固くて養分の少ない痩せた土地になっていました(②)。木の根元には大きな腐朽が入り(③)、幹のてっぺんは枯れ(④)、全体的にだいが弱った状態になっていました。

今回の保全措置では、枯れた幹や枝を除去して、切断面に殺菌剤と保護剤を塗り(⑤～⑦)、根元の腐った部分をきれいに取り除き殺菌剤を散布した上に保護材を塗りました(⑧～⑩)。これは、腐朽の進行を抑止するための措置です。



土壌改良は、弱った樹勢を回復させるための重要な作業です。根を張っている部分の古い土を掘り上げ、発根促進剤を散布し、牛糞堆肥やバーク堆肥と混合した土を埋め戻し、固形肥料を施しました(⑪～⑭)。これに、周囲の土の踏圧を防ぐために木柵を設置して保全措置は終了しました。

この保全措置は冬の間に行われました。夏には新しい葉がたくさん出て、勢いを取り戻したようです。

7 企業等との連携による森づくり

環境問題に対する企業等の意識の高まりに伴い、近年、企業等からの緑の募金も増加傾向にあります。

このような中、より直接的に森林づくり等に取り組みたいという意向を示される企業・団体も出てきています。こうした企業・団体の意向を受け、かごしまみどりの基金がコーディネーターとなって、森林ボランティア団体とも協力しながら、森づくり活動を進めています。

アサヒビール(株)鹿児島支社との連携

志布志市新若浜地内の「志布志海辺の森」は、平成23年11月、アサヒビール(株)鹿児島支社の緑の募金をもとに、将来防風林となるように、抵抗性マツ(スーパーグリーンさつま)、ウバメガシ、ヒメユズリハなどを植栽した場所です。

平成27年6月13日、同社社員と森林ボランティア、地元市役所職員等の参加により下刈りを行いました。当日はあいにくの雨模様でしたが、元気いっぱい、下刈り作業を行いました。



鹿児島信用金庫との連携

鹿児島信用金庫と当基金では、平成23年から、同金庫の「緑の杜プロジェクト」に基づく緑の募金により、県民の森（丹生附地区）の森づくりに取り組んでいます。

平成26年度は、スギ・ヒノキ林の間伐を行うとともに、平成27年4月29日、みどりの感謝祭に合わせて同金庫職員による下刈り作業等を行いました。



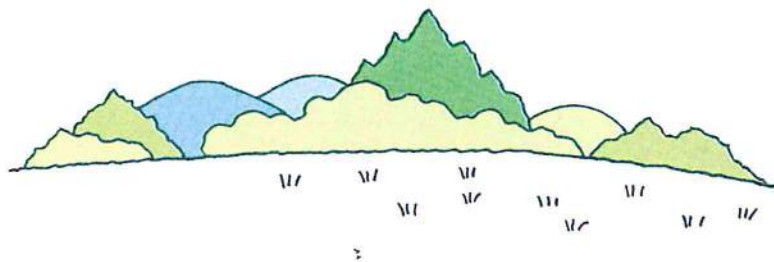
間伐前



間伐後



職員等による森づくり活動



かごしまみどりの基金の組織体制

(1) 理事会, 評議員会, 運営協議会

【理事会名簿】

平成27年9月1日現在

職名	氏名	所 属
理事長	伊藤 祐一郎	鹿児島県知事
常務理事	竹ノ内 洋行	かごしまみどりの基金
理事	川野 敏彦	県環境林務部長
理事	南 勝之	鹿児島市経済局長
理事	東 條 政春	大崎町副町長
理事	中 西 誠	鹿児島森林管理署長
理事	久 保 裕之	(株)南九州ファミリーマート代表取締役社長
理事	田 中 光一	県森林組合連合会副会長
理事	片 平 金也	県農業協同組合中央会専務理事
理事	鮫 島 準一	鹿児島市立草牟田小学校長(県連合校長会)
理事	岩 下 ツキミ	NPO法人鹿児島県地域女性団体連絡協議会長
監事	久木田 義朗	県会計管理者(兼)出納局長
監事	井 上 恒治	県造園建設業協会会長

【評議員会名簿】

平成27年9月1日現在

氏名	所 属
永 岩 清 文	県環境林務部次長
原 之 園 哲哉	県教育庁次長
山 野 隆	県森林組合連合会代表理事専務
宮ノ前 秀明	県治山林道協会専務理事
三 窪 等	県木材協同組合専務理事
岩 屋 哲二	県漁業協同組合連合会代表理事副会長
安 藤 司	県建設業協会専務理事
寺 床 勝也	鹿児島大学教育学部教授
玉 川 惠	(株)丸屋本社代表取締役社長
山 野 真理	(有)カルチャーコネクション代表取締役
岸 尾 隆	鹿児島県市長会事務局長
坂 上 省悟	鹿児島県町村会事務局長

【運営協議会名簿】

平成27年9月1日現在

氏名	所 属
吉 永 義 久	県環境林務部森づくり推進課長
佐 藤 敏 郎	鹿児島森林管理署次長
吉 満 峰 治	南九州市耕地林務課長
比 良 政 志	湧水町農林課長
上 入 來 幸一	鹿児島市緑化推進委員会委員
永 岩 和 幸	県林業研究グループ連絡協議会長
地 福 俊 幸	緑の少年団鹿児島県連盟本部長
大 川 畑 のり恵	県青少年団体連絡協議会元会長
塩 川 英 彬	県森林ボランティア連絡会代表
山 田 拓 也	鹿児島青年会議所理事長

(2) 事務局・スタッフ

職名	氏名	職名	氏名
常務理事	竹ノ内 洋行	総務企画係長	松 元 亜希子
事務局長	北之口 泰哉	主 事	久 保 泰子
事務局次長	前 原 雅文		



豊かな緑支える 緑の募金



- 豊かな森林をつくるために
- 地球温暖化防止のために
- 地域や学校のみどりづくりのために
- 緑の少年団や森林ボランティアの育成のために

緑の募金に御協力をお願いします!

公益財団法人かごしまみどりの基金に寄付された団体・個人には次のような税制上の優遇措置があります。

法人・団体が寄附した場合	通常の寄付金の損金算入限度額 (資本金等の額×0.375%+所得金額×6.25%)×1/2
個人が寄附した場合	寄付金控除(所得控除) (次のいずれか) 寄付金額(総所得の40%上限) - 2千円を控除 [寄付金額(総所得の25%上限) - 2千円]×40%を控除

(公財)かごしまみどりの基金・市町村みどり推進協議会・鹿児島県

〒892-0816 鹿児島市山下町9-15(林業会館4F) TEL099-225-1426・1477 FAX099-225-1511 <http://www.k-green.jp> E-mail:bokin@k-green.jp